

臨床検査医学総論

責任者：安原 努
学年・学期：第2学年・前期／後期

単位数：2単位(45時間)

◆一般目標(GIO)

第1学年で学んだ「臨床医学総論」を基に、追加して代表的な疾患の病態生理を学ぶことで、「各疾患と臨床検査の関係」、「診断における臨床検査の意義」について理解する。

◆到達目標(SBOs)

1. 臨床検査の意義を述べることができる。
2. ショックの病態生理を説明できる。
3. 虚血性心疾患や不整脈について説明ができる。
4. 拘束性換気障害と閉塞性換気障害の違いが説明できる。
5. 胃酸の分泌・抑制機構を説明できる。
6. 慢性腸疾患について説明ができる。
7. ウィルス肝炎やその経過について説明ができる。
8. 胆汁やビリルビンの代謝を説明でき、胆石症等の胆道疾患を説明できる。
9. 日和見感染症や院内感染、菌交代現象など感染症にまつわる代表的テクニカルタームを説明できる。
10. 水と電解質の代謝を説明でき、腎臓疾患について説明できる。
11. ネフローゼの診断基準が説明できる。
12. 代表的な腫瘍マーカーを癌の種類によって選択できる。
13. 糖代謝、脂質代謝について説明が出来、疾患が説明できる。
14. 内分泌臓器とホルモンの関係が説明でき、疾患について説明ができる。
(クッシング症候群、バセドウ氏病、下垂体機能障害)。
15. 各血液データから貧血が分類でき代表的な疾患の病態生理を説明できる。
16. 白血病について理解しFAB分類を述べる事ができる。
17. 出血凝固系を説明でき疾患について説明できる。
18. 膠原病疾患やI型アレルギーについて説明ができる。
19. 脳血管障害について説明ができる。
20. 神経、筋疾患について説明ができる。

◆学習方法

授業は基本的にプリントを使用する。また、必要に応じてスライドを使う。

◆評価方法

出席を考慮し、レポートの提出などを求めることもあるが、基本的には学期末のテストで評価を行う。

◆教科書

臨床検査学講座 『臨床医学総論/臨床検査医学総論』奈良 信雄著 医歯薬出版(株)

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	循環器疾患	循環器疾患総論	安原
2		ショックの病態・不整脈・心筋疾患の病態	
3	呼吸器疾患	呼吸器の解剖生理と換気障害・胸水	〃
4		呼吸機能検査・気管支喘息の病態	
5	肝・胆・膵疾患	ビリルビンと胆汁酸の代謝・黄疸の種類	〃
6		肝炎・肝硬変・肝不全と検査及び胆道系疾患	
7	悪性腫瘍	癌と免疫	〃
8		悪性腫瘍と代表的な腫瘍マーカー	
9	消化管疾患	上部消化管疾患と検査	〃
10		下部消化管疾患と検査	
11	感染症	感染症総論・敗血症と菌血症・検体の取り扱い	〃
12		日和見感染症・感染症新法	
13	泌尿器疾患	水、電解質代謝と腎機能異常、腎機能の検査(画像診断も含む)と腎糸球体疾患の病態	〃
14			
15	血液疾患	血液の成分と機能、貧血検査	〃
16		凝固異常と関連疾患	
17	代謝栄養障害	糖・脂質代謝	〃
18		タンパク質代謝異常、ビタミン欠乏症	
19	内分泌疾患	内分泌の概念と機能検査	〃
20		内分泌疾患	
21	アレルギー、膠原病	アレルギー疾患	〃
22		膠原病とその近縁疾患	
23	精神・神経・運動器疾患	神経・運動器の検査(髄液検査及び画像診断を含む)、神経・筋疾患	〃
24			